



# 営農NEWS



## バレイショ種イモの播種までの管理

### 1 バレイショの種イモが届いたら、保管に注意してください

種イモを入手したら速やかに開封し、イモを拡げて通気をよくします。傷み（シミ）や腐敗したイモは、取り除いてください。保管温度は2～5℃くらいがよく、日陰の涼しい乾燥した場所で、高く積み上げないように保管します。なお、0℃以下に長時間遭遇させたり、高温にさらすこと、通気の悪いビニール等で覆うことは避けてください。また、種イモの合格証票は、事故処理時に必要となりますので、大切に保管してください。

### 2 種イモの消毒を行いましょ

植付前に種イモ消毒を行うことにより、種子伝染病害の黒あざ病やそうか病を防除します。種イモの消毒は、出きるだけ未萌芽のうちにに行いましょう。薬剤によっては、萌芽後や種イモ切断後の処理で、薬害の発生する場合があります。

主な薬剤の処理は下記を参考に行ってください。（農薬の登録状況は、平成 30 年 2 月 13 日現在）。

#### 1) そうか病、黒あざ病、黒あし病の登録薬剤による防除

アタッキン水和剤[FRAC 分類コード：25 と 1 の混合剤]の 40 倍液に、種イモを 5～10 秒間浸漬します。

注) アタッキン水和剤を種イモ消毒で使用する場合は、薬害を避けるため、必ず萌芽前に、種イモを切断せずに処理し、所定の希釈倍率、浸漬時間を厳守してください。また、処理後の種イモは直ちに、風通しの良い場所で、速やかに乾燥させるようにしてください。

※その他、カセット水和剤[分類：31 と 24 の混合剤]（そうか病対象）、アグリマイシン-100[分類：41 と 25 の混合剤]（そうか病と黒あし病対象）の種イモ浸漬処理（処理法は各登録方法）があります。

#### 2) 黒あざ病の登録薬剤による防除

薬剤処理する種イモを、20 kg と仮定した場合、

① モンセレン粉剤DL [分類：20]の 100g を、種イモ 20 kg に対して粉衣する。（種イモ重量の 0.5% 量で粉衣）

② バリダシン粉剤DL [分類：U18]の 60g を、種イモ 20 kg に対して粉衣する。（種イモ重量の 0.3% 量で粉衣）

注) 所定の種イモ量（切断した種イモでは切断面が乾いてから）を適当な容器に入れ、そこに所定の薬量を混和して、均一に粉衣してください。

※その他、黒あざ病防除として、リゾレックス水和剤[分類：14]、バリダシン液剤5[分類：U18]などの種イモ浸漬処理（処理法は各登録方法）があります。

### 3 浴光育芽（催芽）を行いましょ

丈夫な芽を出し、初期生育を揃えるために、浴光育芽を行いましょ。手順は、

1) 植付 3～4 週間前（品種や気温により若干の差があります）から、湿気のない庭先や倉庫の窓際、ハウス内などで、コンテナを利用したり、床に種イモを薄く並べて（3 段くらいまで）浴光育芽を開始します。床が地面の場合は、シート等を敷いて行ってください。

2) 育芽温度は日中 10～20℃くらいで、出来るだけ外気温に合わせるために施設内では十分換気を行い、20℃以上の高温は避けましょ。25℃以上になると、障害が発生する場合があります。また、夜間は凍結しないように注意してください。

3) 育芽期間中に週 1 回程度は、並べた上下を入れ替えて、均一に光をあてます。萌芽は 5mm くらいを目安にましょ。

### 4 畑の準備作業を行いましょ

バレイショの連作は、収量、品質ともに低下ましょるので、出きれば 3～4 年間バレイショの作付けがない圃場を選びましょ。土壌酸度は微酸性が良く、中性～アルカリ性の場合は、そうか病の発生が多くなるので注意ましょ。

圃場は 10 日前までに完熟堆肥を全面に施し、耕起を出きるだけ深く、丁寧に行っておましょ。

### 5 適切な大きさの種イモに調整しましょ

育芽（催芽）がすんだ種イモは、芽が 2～3 個ついて、重さ 30～60 g 程度になるように調整ましょ。1 個が 60 g 未満のものは切らずに丸植えし、60～120 g は 2 つ切りに、120 g 以上は 3 つ切り以上に切断して調整ましょ。なお、切断後は、ゴザ等で覆って 2～3 日置き、切り口をコルク化させてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040